



概要資料

文部科学省認定「職業実践力育成プログラム」(BP)

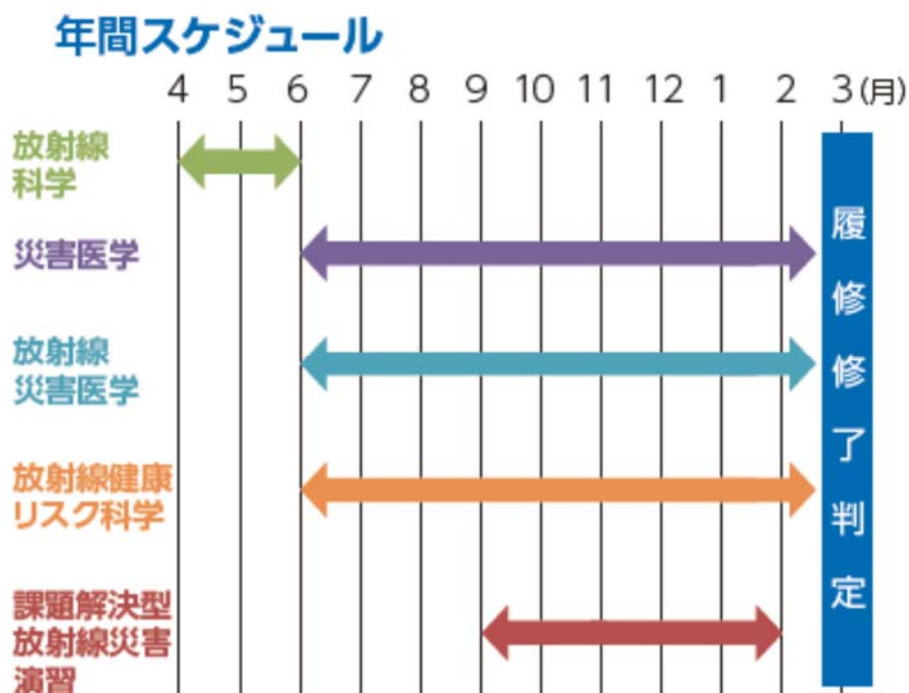
放射線災害専門スタッフ養成プログラム

(事業概要)

「放射線災害専門スタッフ養成プログラム」は、放射線災害の全時相において即戦力となるプロフェッショナルの養成を目的としています。専門の知識と技術を持って広く活躍できる放射線災害専門スタッフの養成はもちろん、専門知識を持たない者に対してトレーナーとして指導的立場で活躍できる人材の養成を目指しています。

受講対象は、①医師、看護師、保健師、診療放射線技師、臨床検査技師、薬剤師、医学物理士等のメディカルスタッフ、②災害に関連する専門職(消防士、警察官、自衛官等)および事務関係者等としています。履修期間は原則1年間とし、e-learningにて放射線科学、災害医学、放射線災害医学、放射線健康リスク科学の4科目で80時間の講義に、課題解決型放射線災害演習(実習+対面講義)40時間を加えて合計120時間のカリキュラムで構成しています。実習+対面講義の開催は主に休日に設定するほか、欠席者に対してはビデオ教材を提供しe-learningによる履修が可能であり、社会人が学習しやすい環境を整えています。

受講の年間スケジュールは以下のとおりです。



(様式1)

## 職業実践力育成プログラム(BP)への申請について

平成30年10月2日

①学校名:	筑波 大学(国立)	②所在地:	茨城県つくば市天王台1-1-1				
③課程名:	放射線災害専門スタッフ養成プログラム	④正規課程/履修証明プログラム:	履修証明プログラム	⑤開設年月日:	2018/4/1		
⑥責任者:	医学群長 榎 正幸	⑦定員:	10名	⑧期間:	1年間		
⑨申請する課程の目的・概要:	本プログラムは、放射線災害のあらゆる時相(災害発生時の緊急被ばく医療から復興期の健康管理まで)において、専門の知識と技術を持って広く活躍できる人材の養成を目指した履修証明プログラムである。対象はメディカルスタッフのみでなく、災害に関連する専門職、さらには災害に関連する事務関係者等も対象とし、専門知識を持たない者に対しても、トレーナーとして指導的立場で活躍できる能力の修得を目指す。放射線災害で必要となる基礎的知識から専門的知識までを体系的に構成したe-learning講義、対面講義・実践的な演習を実施することにより、放射線災害時に対応できる能力を身につける。						
⑩4テーマへの該当の有無	無し	⑪履修資格:	下記の条件を満たす高校卒業以上の学歴を有するもの。 ①医師、看護師、保健師、診療放射線技師、臨床検査技師、医学物理士等のメディカルスタッフ ②災害に関する専門職および事務関係者等				
⑫対象とする職業の種類:	①医師、看護師、保健師、診療放射線技師、臨床検査技師、医学物理士等のメディカルスタッフ ②災害に関する専門職および事務関係者等						
⑬身に付けることのできる能力:	(身に付けられる知識、技術、技能) 放射線災害の全時相において対応できるような放射線の基礎的知識から放射線・災害の専門的知識と技術			(得られる能力) 放射線災害が発生した場合に、災害発生初期の緊急被ばく医療から、復興期の継続的な放射線に対する健康管理までの各時相に応じて指導的立場で対応できる能力			
⑭教育課程:	放射線科学、災害医学、放射線災害医学、放射線健康リスク科学の4科目のe-Learning講義に、課題解決型放射線災害演習(実習+対面講義)を加えて合計120時間のカリキュラムで構成する。 放射線科学15時間、災害医学20時間、放射線災害医学20時間、放射線健康リスク科学25時間、課題解決型放射線災害演習40時間。						
⑮修了要件(修了授業時数等):	120時間の講義・実習を履修し、各講義についてのレポートを提出し、「可」の評価を受けること。						
⑯修了時に付与される学位・資格等:	履修証明書						
⑰総授業時数:	120 時間	⑱要件該当授業時数:	120時間	該当要件	双方向、実務家	⑲要件該当授業時数 / 総授業時数:	100%
⑳成績評価の方法:	e-Learning(80時間)はすべての講義を閲覧し課された課題に対するレポートを提出。 実習と対面講義(40時間)は原則すべて出席し、課題をレポートする。 上記のレポート評価が「可」と判定されたものを終了とする。						
㉑自己点検・評価の方法:	履修生に対し、満足度調査アンケートを実施するほか、年1回外部評価委員によるプログラムの評価を受ける。また、事業推進委員会を開催し、進捗報告をし、議論することにより自己点検・評価を行う。 なお、評価の結果等はホームページや年次報告書にて公表する。						
㉒修了者の状況に係る効果検証の方法:	履修証明プログラム修了者の自施設において、放射線災害に対する指導者としての評価により効果を検証する。また、修了者向けにアンケート調査を行い、それにより効果検証を行う。						
㉓企業等の意見を取り入れる仕組み:	(教育課程の編成) 放射線関連の施設や他大学により組織する外部評価委員において年1回外部評価を受けることにより、教育課程の編成に外部からの意見を取り入れる。 (自己点検・評価) 外部評価委員会での外部評価を受け、実務調整委員会や事業推進委員会において、進捗報告をし、議論することにより、自己点検・評価を行い、外部からの意見を反映させる。						
㉔社会人が受講しやすい工夫:	講義4科目80時間はe-learningにより提供、演習(スクーリング)40時間の日程は休日に設定するほか、欠席者に対してはビデオ教材を提供しe-learningによる履修が可能となるようにする。						
㉕ホームページ:	(URL) <a href="https://ramsep.md.tsukuba.ac.jp/">https://ramsep.md.tsukuba.ac.jp/</a>						

事務担当者名:	廣田 春夫	所属部署:	医学医療エリア支援室 教務・学生担当
連絡先:	(電話番号)	029-853-3012	
	(E-mail)	<a href="mailto:hirota.haruo.fm@un.tsukuba.ac.jp">hirota.haruo.fm@un.tsukuba.ac.jp</a>	

\* パンフレット等の申請する課程の概要が掲載された資料を添付してください。

\* 様式に記載いただいた内容と欄外の「※集計用データ(文部科学省使用)」に記載の内容が、一致しているかを必ずご確認ください。

(様式2)

授業科目の概要について

学校名:	筑波大学
課程名:	放射線災害専門スタッフ養成プログラム

要件該当授業時数:	120時間
要件該当授業時数/総授業時数:	100%

分類	科目名	配当年次	授業時数	企業等	双方向	実務家	実地	担当教員・実務家名	教員・実務家の所属
必修	放射線科学	1	15			○		榮 武二	筑波大学医学医療系
必修	災害医学	1	20			○		井上 貴昭	筑波大学医学医療系
必修	放射線災害医学	1	20			○		武居 秀行	筑波大学医学医療系
必修	放射線健康リスク科学	1	25			○		磯辺 智範	筑波大学医学医療系
必修	課題解決型放射線災害演習	1	40		○	○		森 祐太郎	筑波大学医学医療系
			/						
			/						
			/						
			/						
			/						
			/						
			/						
			/						
			/						
			/						
			/						
			/						
			/						
			/						
			/						
合計:	5科目					120		時間	

\* 申請する課程で受講可能な全ての科目について記入してください。  
\* 「企業等」、「双方向」、「実務家」、「実地」の欄に○を付けた科目については、要件に該当することを明記したシラバスを添付してください。